

つべつちようゆうきらくのうけんきゅうかい
「農業技術の匠」： 津別町有機酪農研究会（北海道網走郡津別町）
～ 有機栽培による飼料作物生産体系の確立 ～



〔津別町有機酪農研究会〕

1 技術確立の背景(目的)

津別町は、土地条件・気象条件ともに厳しい典型的な中山間地帯で、一戸当たりの経営規模も小さい地域です。

このような条件から、酪農家の間では高品質・高付加価値化に向けて環境に配慮した安心で安全なこだわり牛乳生産が検討されてきました。

津別町有機酪農研究会は、平成12年に町内の酪農家で組織され、有機栽培による粗飼料生産、さらに有機畜産JASの認証取得と有機牛乳の販売を目標に活動しています。

2 技術概要(技術効果)

会員全てのほ場で化学肥料や除草剤を全く使用せず、有機肥料(堆肥・尿・鶏ふんなど)を施用しています。

有機栽培の開始当初は、飼料作物の有機栽培技術が無く、収量の大幅な減少と雑草繁茂に苦しみましたが、農業改良普及センターや農業試験場等と連携して試行錯誤を重ね、慣行栽培に匹敵する収量が確保出来る栽培体系を確立しました。

(1) 土壌分析と収量調査に基づいた有機肥料の適正施用

(2) サイレージ用とうもろこしの機械除草技術体系

(3) 草地のマメ科牧草追播による収量増と雑草低減

3 技術の地域への活用状況(普及状況)

有機酪農研究会は、平成16年に有機JASのほ場認定を取得、18年には日本初の有機畜産JAS認定を取得し、「オーガニック牛乳」の販売を開始しました。

このような成果は、地域内外から多くの注目を浴び、研究会に2戸の酪農家が新たに参加するなど、取り組みが広がりつつあります。

また、津別町が以前から取り組んでいる特別栽培など環境保全型農業(クリーン農業)の取り組みとも連携し、津別町全体を環境にやさしい「有機のまち」にしていくため、関係機関と協力して活動しています。



〔日本初「オーガニック牛乳」〕

※最寄りの普及指導センター { 北海道網走支庁網走農業改良普及センター美幌支所
住所：北海道網走郡美幌町稲美150-6
TEL：0152-73-5111

<技術のポイント>

有機栽培（無農薬・無化学肥料）による飼料作物生産体系の確立

① 土壌分析と収量調査に基づいた有機肥料の適正施用

全ほ場での土壌分析と毎年の収量調査を実施し、これらの結果に基づいた堆肥・尿・鶏ふんなどの有機肥料の施用を行っている。

② サイレージ用とうもろこしの機械除草技術

播種後5日目程度の雑草発生前にカルチベーターによる初回除草（かぶせ）を行い、以後1週間おきに約4回の機械除草を行うことで、雑草をある程度抑制でき、初期生育と収量・栄養価の向上につなげている。



作業タイミングを工夫したカルチ除草

③ 草地のマメ科牧草追播による収量増と雑草低減

研究会で追播機を導入し、裸地が多いなど牧草の生育量が少なくなっている草地においてマメ科牧草（クローバなど）の追播を随時行い収量維持と雑草低減に努めている。

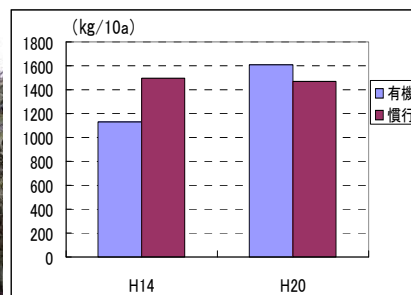
こうした取り組みにより、慣行栽培と同等以上の収量を実現している。



開始当初のとうもろこし



現在のとうもろこし

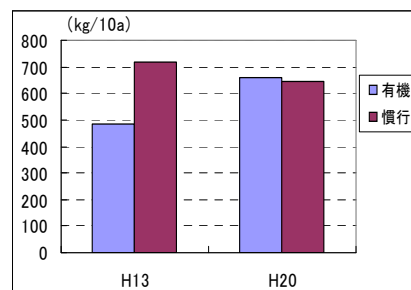


とうもろこしの乾物収量比較
慣行比H14:75%→H20:110%

また、関係機関と連携し、有機粗飼料栽培から飼養管理、環境面や生産行程に関わることなど、多くの関係機関の支援を受け、連携することで日本初の有機畜産JAS認定取得と有機牛乳の販売を実現している。

[関係機関の支援内容]

支援機関	主な支援活動
農業協同組合	研究会事務局、会議の開催、認証申請事務、計画書等作成、包括的支援
町	各種事業の提案導入、町営育成牧場の有機化
農業改良普及センター	栽培に関する情報提供、生育・収量調査、環境・乳質改善支援
乳業メーカー	現地調査支援、生産行程作成、研究費の助成
支庁(農務課)	HACCP手法導入支援、各種情報提供、環境整備指導
家畜保健衛生所	HACCP手法導入支援、内部規定作成、乳牛血液検査
農業試験場	新栽培技術の現地試験、収穫調査時研修会
大学	有機酪農転換によるコスト・環境負荷に関する調査研究



牧草の乾物収量比較
慣行比H14:68%→H20:102%



多くの関係機関と協力